

《どうでもいい話、その576》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

年をとると、いろいろ身体に不具合がでてきて医者へ行くことが多くなってきました。私の家の周りを見ますと、徒歩10分以内には、内科、外科、整形外科などありますが、歯科医は4件もあります。昔知人の息子が阪大の歯学部を卒業し、歯科医院に務めましたが、しばらくして「世の中に歯医者も多く、将来的に不安定だ」と阪大医学部に再入学し、卒業して現在は精神科医師になっています。もう数十年も前の話しですが・・・。歯科医は、他の医師に比べ軽視されていないでしょうか。これまでに歯に文学の光が当てられたことがあったでしょうか。「路傍の歯」という小説があったでしょうか。あるいは社会学の立場から歯が論じられたことがあったでしょうか。ただ「歯」は、胃、腸、肺など体内の他の臓器に比べると親しみやすく「歯の抜けたよう」「歯を食いしばる」「歯がたたない」「歯が浮く」「噛みついてやる」など、歯に関する慣用語がよく使われます。「噛む噛むエブリバディー」歯を大切にしましょう！！

岩波より